第１課　聖書の独自性

【暗唱聖句】

**「あなたの御言葉は、わたしの道の光、わたしの歩みを照らす灯」詩篇119:105**

【日曜日・神の生ける言葉】

モーセはその人生の幕を閉じるにあたって、こう言いました。**「あなたたちは、今日わたしがあなたたちに対して証言するすべての言葉を心に留め、子供たちに命じて、この律法の言葉をすべて忠実に守らせなさい。それは、あなたたちにとって決してむなしい言葉ではなく、あなたたちの命である。この言葉によって、あなたたちはヨルダン川を渡って得る土地で長く生きることができる。」（申命記32章47節）**。

　聖書の最初の5巻（創世記～申命記）はモーセが書きました。それはモーセを通して神様が語られた言葉でした。その神様の言葉をすべて心に留めるように、そして子供たちに守らせるように、モーセは強く命じました。なぜなら、聖書のみ言葉は、むなしい言葉ではなく、それを読む者の命となり、長く生きる力となるからだと続けました。このモーセのメッセージは、現代の私たち一人一人にも向けて語られた言葉です。終わりの時代、神様はご自分の残りの民を持つと言われていますが、彼らの特徴はまさに御言葉に忠実であることです。それが「神の掟を守り」「イエスの証を持つ」という残りの民の特徴として書かれている言葉の意味です。これらの人々は、まさに希望が与えられ、永遠の命を生きることになるのです。

　また聖書は、「初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった」（ヨハネ1:1）とあるように、御言葉とイエス様を結び付け、聖書全巻の焦点や目標がイエス様なのだと教えています。そして、イエスご自身、「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない」と明言され、御言葉の希望と力の源が、イエス様にあることを明確にさせています。

【月曜日・誰がどこで聖書を書いたのか】

聖書の記者は、40人程度いると考えられています。その中には、ダビデのような王、モーセやダニエルのような偉大なる指導者もいれば、イエス様のお弟子たちもいます。若い人もいれば、高齢者もいます。また、自分が実際に目撃したことを書いた人もいれば、資料を注意深く調べて書いた人もいます。これらの人たちが、時代を超えて、約1500年間にわたって書かれたものを一つにまとめたのが聖書です。

それぞれ書かれた時代も背景が全く違うのですが、一つ共通していることがあります。それは「聖書はすべて神の霊の導きの下に書かれ」（第二テモテ3:16）たことです。それゆえ聖書は一貫性があり、まるで一人の人によって書かれているかのように出来上がっているのです。そして、御言葉はすべて、「人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益」なのです。

【火曜日・預言としての聖書】

聖書の約30％は、未来を預言する言葉、あるいは預言的文章となっています。歴史の中で働かれる神様は、未来もご存じであり、それを預言者に示してきました。これは全知全能である神様の偉大さを示すと同時に、人類の歴史がすべて神様のみ手の中にあることを、わたしたちに教えるためです。聖書の預言の中でも重要な預言の一つにメシア預言があります。救い主としてイエス様がお生まれになるという預言です。直接的なメシア預言は65回、いけにえで象徴されるところの予型的な言及も加えるとさらに多くなります。メシア預言に関しては、メシアはユダ族から生まれる、ベツレヘムで誕生する、軽蔑される、鞭で打たれる、口を開かない、着物が分けられるなど、かなり細かな点まで預言されています。メシアとしてイエス・キリストがお生まれになることが正確に預言されており、その通りに成就していくのを見るとき、聖書の預言の真実性が明らかになるのです。また、イエス様ご自身も、ご自分の死と復活、エルサレムの滅亡、再臨前の前兆と再臨など、生前たくさんの預言を残しています。

【水曜日・歴史としての聖書】

聖書は単なる哲学思想とか、何かの教えが書かれている書ではありません。聖書を読めばわかりますが、イスラエルを中心とした歴史の記録が書かれてあります。その意味では歴史書でもあります。ただ、人類の歴史の中で神様がどのように関わってこられのかが記録されており、それがわたしたちにとって価値のある教えとなっていきます。そして、神様の歴史の進展は、メシアの来臨と十字架の贖いの死と復活、そしてイエス様の再臨というゴールに向かっていきます。

　聖書に書かれている出来事は、歴史的に実際に起こった事実として私たちは受け止め、信じています。その中には現代科学を否定するようなこともたくさん書かれてありので、聖書に書かれてある出来事が歴史的な事実であることを信じることができないと、意味をなさなくなってしまうでしょう。その中でも重要なのはイエス様の復活です。

「最も大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えたのは、わたしも受けたものです。すなわち、キリストが、聖書に書いてあるとおりわたしたちの罪のために死んだこと、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおり三日目に復活したこと、ケファに現れ、その後十二人に現れたことです」第一コリント15:3～5

ここに、イエス様が復活したことについて書かれてあります。その際にペテロや他の12人にも現れたことが記録されています。事実を事実として書いてあるわけですが、幼子のように信じる時、復活の希望がわたしたちのものとなるのです。

【木曜日・人を変える御言葉の力】

聖書には人を変える大きな力があります。紀元前621年のこと、ヨシヤ王が25歳のときに、大祭司ヒルキヤが行方不明になっていた「律法の書」を発見しました。ヨシヤが律法の書を読んだとき、いかに自分たちが真の神様を礼拝することからかけ離れていたことをしていたのかを知ります。これは本当にショッキングなことでした。ヨシヤはすぐに国中で改革を始め、偶像をすべて破壊したのでした。そして、破壊しつくした結果、最後に残ったのがエルサレムの神殿ただ一つでした。ヨシヤの回心はやがてユダの全土に広がっていったのでした。このヨシヤの例は聖書が人を変える実例の一つです。

　イエス様の祈りの言葉の中に次のような言葉があります。

「しかし、その方、すなわち、真理の霊が来ると、あなたがたを導いて真理をことごとく悟らせる」ヨハネ16:13

「真理によって、彼らを聖なる者としてください。あなたの御言葉は真理です」ヨハネ17:17

ここで明らかなように、御言葉は真理です。人は真理を知ると聖なる者へと変わるのです。そして、御言葉の真理を悟らせてくださるのが聖霊です。この原則を知ることは大切で、なぜ聖書を読む必要があるのかがわかることでしょう。聖なる者へと作り変えられたければ、日々聖書を通して真理を知ることが第一条件です。